

むかしへタイムスリップ

与論町立与論小学校 二年 とさか 心か

「これが、ばしょうふをおっていくおりきです。」

と、あん内人が教えてくれた。今日は夏休みしよ日。さくらは、友だちのあちゃんとよろんみんなぞく村にあそびに来ている。

「これが、ホラガイ。こうやってふくんだよ。」

「ボオーッ。」

心ぞうにひびく大きな音になった。

「さくらちゃんもふいてごらん。」

手わたされたホラガイは、りよう手よりも大きくてずっしりとおもい。ふかくいきをすいこんでふいてみる。

「あれ。ならないな。」

何でだろうとふしぎに思い、ホラガイをのぞきこんでみた。するとそのとき

「シュルルルル。」

目の前がまっくらになり、あつという間にホラガイにすいこまれてしまった。

「あいてて。」

さくらが目をあけると、さつきまでのけしきとはちがつていた。かやぶきの屋ねのいえがならび、ばしょうふの

ふくを着た人たちが歩いている。牛はせ中に太いぼうをのせ、ぐるぐると大きく回っている。さくらは、だんだんふあんになってきた。

「すみません。ここはどこですか。」

ゆう気をふりしぼり、ばしょうふをおっているおばあちゃんに声をかけた。

「あら、見かけない子だね。」

やさしい声で話しかけるおばあちゃんに、さくらは少しあん心した。おばあちゃんは黒ざとうとパイヤのつけものとお茶を出してくれた。

「この子とあそびなさい。」

と言って、同じ年くらいのおばあちゃんのまごをしようかいしてくれた。

「わたし、マグ。よろしくね。」

マグとさくらはすぐなかよくなった。ゴムとびをし、アダンのみでおままごとをした。それからマグは、

「わたし、これとくいなんだ。」

と言ってソテツのはを持ってきた。

「ソテツ。ソテツをどうするの。」

さくらがたずねると、マグはにこつとわらい、なれた手つきではをあんていく。

「ほら、虫かごのできあがり。」

あつという間にかんせいした虫かごは、はがきれいにな

らんでいて、ソテツで作ったとは思えないほど、とても
じょうぶだった。

「すごい。わたしも作ってみたいな。」

さくらは、マグに虫かごの作り方を教えてもらった。ま
ず、みじかい下のはをとり、さいしょの一本をじくにする。
そして、右のはは左へ、左のはは右へと、こうごに
くりかえしあんでいく。ほつれないように、はじめはき
つくあむ。あみつづけると、じくにしていた三本のはの
長さが足りなくなるので、べつにとっておいたはを足す。
「やった。できた。」

マグの虫かごよりは上手じゃないけど、りっぱな虫かご
をあむことができて、さくらはとてもうれしくなった。

「たくさんあそんで、つかれたね。」

マグとさくらは、おばあちゃんのをいでおひるねするこ
とにした。

「さくら、そろそろおきなさい。今日はマコちゃんとあ
そぶ日でしょ。」

おかあさんが、わたしの体をゆさぶる。

「あれ、マグは。」

「夏休みしよ日から、何ねぼけちゃってるの。早くあさ
ごはんを食べてしたくしないと、マコちゃんまたせち
やうよ。」

さくらはハッとしておき上がった。

まくら元には、マグに教えてもらった虫かごがある。
あの体けんはなんだったのだろう。ふしぎに思ったが、
マグとの思い出は大切にしまっておくことにした。

「行つてきまあす。」

マコちゃんとみんぞく村にあそびに来た。

「これが、ばしようふをおつていくおりきです。」

あん内人がせつめいしてくれる。そうそう、マグのおば
あちゃんもこれ、おつてた。

「これが、ホラガイ。こうやってふくんだよ。」

よし、こんどこそふけそうな気がする。

「さくらちゃんもふいてごらん。」

手わたされたホラガイは、やつぱりずしりとおもい。マ
コちゃんも、がんばれとおうえんしてくれている。思い
つきりいきをすいこみ、せえので思い切りふいてみる。
「ポーツ。」

あたりに、心地よい音がなりひびいた。

